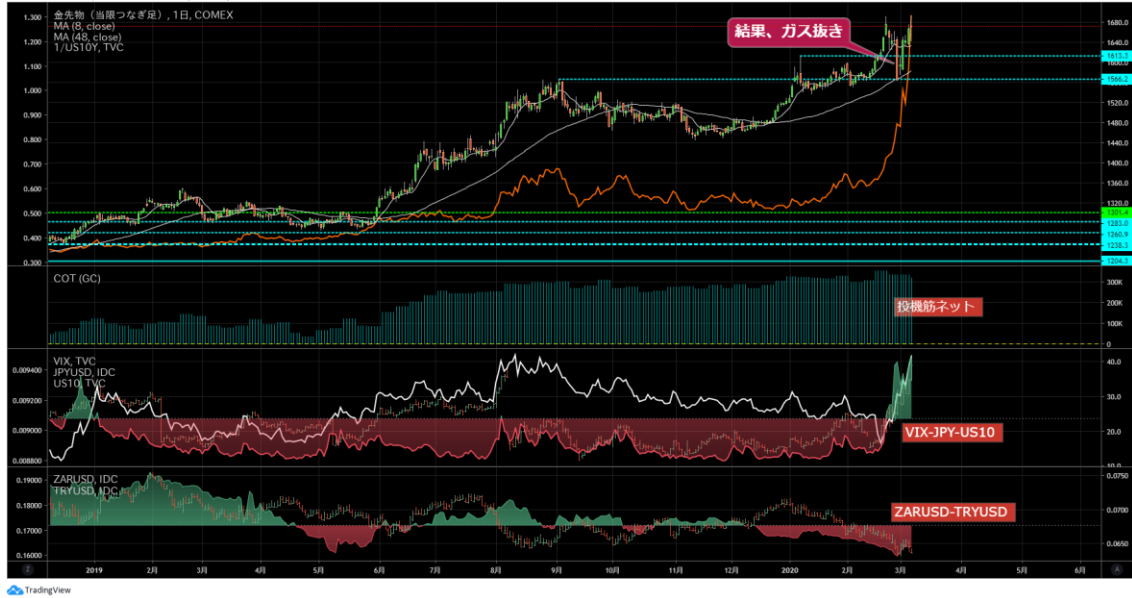


CFTC レポート

ゴールド

「指値は動かすな」

shingo_y TradingView.com で公開, 3月 07, 2020 10:36:04 JST
COMEX_DL:GC1,1D 1672.4 ▲+4.4 (+0.26%) O:1673.1 H:1692.8 L:1642.4 C:1672.4



<https://www.tradingview.com/x/d5K8cWNF/>

shingo_y TradingView.com で公開, 3月 07, 2020 10:36:06 JST
COMEX_DL:GC1,30 1672.4 ▲+4.4 (+0.26%) O:1673.5 H:1676.7 L:1672.8 C:1674.2



<https://www.tradingview.com/x/jQEveJr8/>

「大局」

今週のゴールドは、売り一色となった先週の流れから一転、再びゴールドの存在そのものを意識した動きが展開されました。先週は損失補てんで値を消したゴールドですが、今週は、週序盤から、売り方投機筋の買戻し、大衆のリスク回避の買い、その他相対的な側面も含めた様々なタイプの「買い」を背景として底堅く推移する事に。ゴールドは、暫し 1600 ドル台でのサイドウェイが続いていたものの、FRB の緊急利下げに反応し 1650 ドルまで急伸。以降、再びゴールドの存在そのものを意識した買いに支えられ、一時 1700 ドル手前まで上伸する事となりました。

「潮目（見極め）」

(出所:CFTC)		大口投機筋/Non-commercial					小口投機筋/Non-Reportable			投機筋	Traders		
		OPNE INT	LONG	SHORT	NET	S P D	LONG	SHORT	NET	TOTAL	LONG	SHORT	NET
	3月3日	691,985	366,173	46,440	319,733	85,359	62,319	31,041	31,278	351,011	224	57	167
NY GOLD	PERV	-40,932	-23,166	-7,034	-16,132	-5,369	-13,912	-5,434	-8,478	-24,610	-17	-6	-11

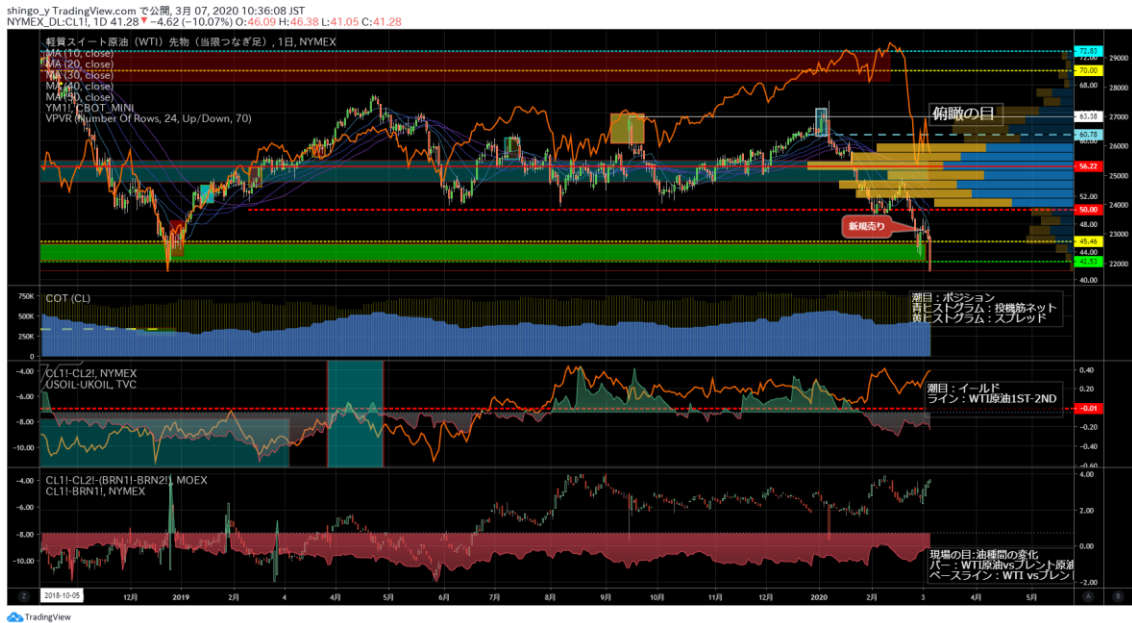
今週の COT レポート (3/3) は、1554-1660 ドルのレンジで大口ネットロングが約 1.6 万枚減。大口小口で売り買い共に手仕舞い、ネットベースでは約 2.4 万枚のロング減となっており、これは、先週言及した「資金ショートの穴埋め」が影響していますが、ポイントとしては、手口の約 1/3 が買戻しとなっている事。売りは、外的要因（損失補てん）で“やむなし”の売り、一方、1590-1570 ドルのレンジでは「続落の余地無し」の買いとなっており、手口と値位置の両方を冷静に分析すれば、今回のネットロング減がゴールドに与えたダメージは一切無く、むしろガス抜きが出来て丁度良かったといったレベルの話になります。

「現場の目」

今週も「一週間の変動が約 130 ドル」。(6 日 23 時現在) 1690 ドルで一旦利確が入り気持ち圧されていますが、物事が複合的に絡み合う今の局面では、「利確」というワードは安易に使えません。現物比、損失補てん、アルゴによる節目の仕掛け等々、異なる意図が背景にある事は留意しておく必要があります。ただ・・・、ゴールドを取り巻くムードは異様なもので、現場サイドであれ、アナリスト目線であれ、大半がゴールドの展望を「強」で表現しており、押し目を作ろうものなら一瞬で吸収される展開が続いています。上図のチャートを見ると、結果としてゴールドに米金利（ここでは 1/で反転させている）が鞆寄せしているのが確認でき、思わず「冗談だろ？」と言いたくなる様な図式ですが、結局、ゴールドが正しかったという事。「急落が怖くて買い指値を抜いてしまった」という声も多いですが、指値というものは、自身が考えに考えた上で配置したオーダーであり、簡単に値位置を変えたり、同じ場所に入れたり出したりする事は、イコール、最初から真面目に考えていなかったと言う事です。

原油

「一番悪い損切り」



<https://www.tradingview.com/x/QpiAwIYO/>



<https://www.tradingview.com/x/jUHGFpda/>

「大局」

今週の WTI 原油市場は、新型コロナウイルスの感染が拡大の一途となる中、原油市場に対する悪影響が長期化するとの思惑から大幅安を演じる事となりました。先週は、巻き戻しの兆しが見えた中での戻り売りとなったものの、今週前半はNYダウが回復基調に戻した事もあり、原油市場も歩調を合わせる形で小確りの展開に。市場は、しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大と経済への波及懸念が再び売りを誘う事となり、週末に掛けて売り一色の流れとなりました。WTI 原油は、終値ベースで 2017 年 6 月 21 日の安値を更新し、41.57 ドルで終了しています。

「潮目（見極め）」

(出所:CFTC)		大口投機筋/Non-commercial					小口投機筋/Non-Reportable			投機筋	Traders		
		総取組高	ロング	ショート	ネット	SPD	ロング	ショート	ネット	全ネット	ロング	ショート	ネット
	3月3日	2,196,089	563,904	175,535	388,369	737,704	81,498	79,697	1,801	390,170	110	114	-4
NY原油	前週比	16,256	5,106	48,203	-43,097	-16,417	-5,762	774	-6,536	-49,633	-17	14	-31

今週の COT レポート（3/3 日分）は、43.32-50.44 ドルのレンジで約 4.3 万枚のネットロング減。大口は新規ショート、小口は売り手仕舞いという事で、前者は「続落」、後者は「（上に）戻らない」との思惑から異なる手口となっています。先週は「コモディティ市場全体のポジションをリンクさせる事が肝要」と述べましたが、興味深い事に、殆どのコモディティのポジションが手仕舞い売りでネットロングを削っている中、WTI 原油に関しては「新規売り」のロング減。ひとえに WTI 原油が「（売りの）有望株」であるとの判断であり、結果的にも彼らのポジショニングは成功という事になります。小口は、まだ吐き出す可能性があるでしょう。

「現場の目」

一週間の値幅は約 5.5 ドル。原油市場自体ボラが高く、5 ドル程度の変動は普通の事ですが、やはり“往って来い”（つまり 5 ドルの上下）はインパクトがありますね。今週は「上」を期待したトレーダーが多かった中での反落という事で、週後半、特に金曜日のマーケットで“投げ”に回ったプレーヤーも少なくありませんでした。「WTI の 50 ドル回復を祈る中、EIA がポジティブ（在庫減）になったにも関わらず売られ、何とか持ち直しを期待したものの、NY ダウの下げに歯止めが掛からず、最後は、WTI の直近安 53.32 割れ、そしてマーケット全体のセンチメントを嫌気して損切った」。気持ちは理解できますが、最も悪い形の損切りですね。直近安って・・・何なのでしょう？何に対して、どのくらい安いのでしょうか？方程式が通用しなくなった“今”の相場で、もしかしてキャンドルスティックを見て「直近安」と言っているのでしょうか？考える限り最悪の判断、損切りと言えるでしょう。負けるにしても、次に繋がる負け方が重要であり、直近安や全体のセンチメントで切る行為は何も生みません。

為替/金利：「本質に戻す」



<https://www.tradingview.com/x/PTkZHxAu/>



<https://www.tradingview.com/x/d7GKxUJr/>



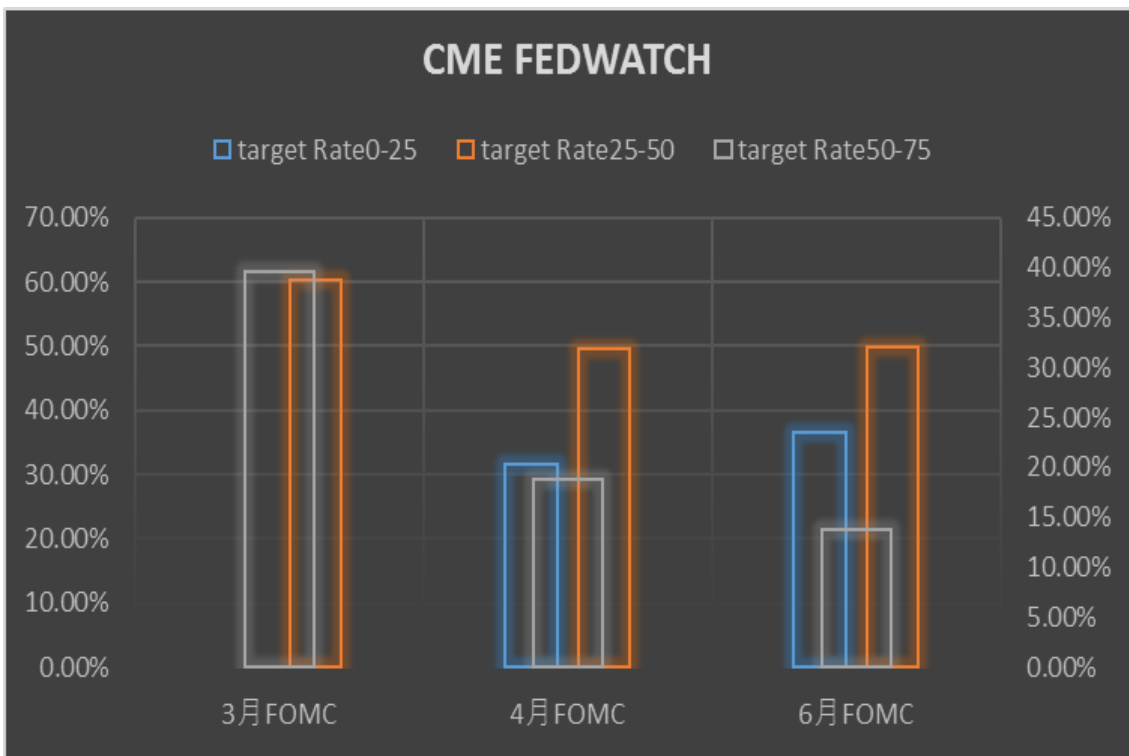
<https://www.tradingview.com/x/pCbw9Vu1/>



<https://www.tradingview.com/x/yxzwJFLV/>



<https://www.tradingview.com/x/me3N6Clg/>



「大局」

今週の為替市場は、新型コロナウイルスの感染拡大と米金利低下が加速する中、ドルが主要通貨のみならず他通貨に対しても広く売られる展開となりました。米 10 年債利回りが過去最低を更新しドル売りも加速する中、今週は米 FRB が「新型コロナウイルス感染拡大が過去最長の米景気拡大に影響を与えないよう」0.5 ポイントの緊急利下げに踏み切ったことから、ドル売りと米金利低下に拍車がかかる展開に。以降、ドル（インデックス）は押し目らしき押し目も付けぬまま急落し、一時、19 年 6 月 25 日に付けた 95.84 を割り込む事となりました。また、円に関しては 105.00、ポンドは 1.3000 と、それぞれ節目となる水準まで買われる事となりました。

「潮目（見極め）」

(出所:CFTC)		大口投機筋/Non-commercial					小口投機筋/Non-Reportable			投機筋 全ネット	Traders		
		総取組高	ロング	ショート	ネット	SPD	ロング	ショート	ネット		ロング	ショート	ネット
GBPUSD	3月3日	214,672	76,063	40,901	35,162	12,383	25,371	27,859	-2,488	32,674	26	28	-2
JPYUSD	3月3日	198,404	50,598	92,922	-42,324	5,109	22,567	30,330	-7,763	-50,087	31	35	-4
EURUSD	3月3日	640,357	151,904	238,607	-86,703	18,922	83,992	52,995	30,997	-55,706	74	74	0
BITCOIN	3月3日	4,837	2,227	3,809	-1,582	621	1,989	407	1,582	0	25	14	7
GBPUSD	前週比	3,351	3,396	-2,168	5,564	5,815	-4,788	2,286	-7,074	-1,510	2	-3	5
JPYUSD	前週比	-25,500	-3,257	-17,322	14,065	2,412	-721	-10,817	10,096	24,161	3	-15	18
EURUSD	前週比	14,794	-5,683	-33,001	27,318	-3,307	-6,426	-7,947	1,521	28,839	-4	-2	-2
BITCOIN	前週比	-795	-1,523	-1,107	-416	332	396	-20	416	0	-15	-4	0

今週の COT レポート (3/3) は、円とユーロでネットショート減と言う事で、先週とは真逆の手口となっています。

円は大口小口共に大幅な（円）買戻しで、円売りから円買いに乗り換えるというよりも、市場からの撤退の動きが目立ち、手口の性質も「リスク回避の円買い」とは異なると言えるでしょう。売買レンジが 110.70-106.90 となっており、手仕舞い売りのポイントが若干ぼやけますが、FRB による利下げの可能性、そして実際の緊急利下げの間に集中したイメージ、つまり 108-107 円のレンジが考えられます。

先週は「1/8 頃より続いていた、米長期金利との大幅な乖離を緩める、～中略～、今後は、2/20 頃のドル円の様に、大きく乖離したポイントの一つの物差しに」という考えを示しましたが、改めてポイントを振り返ると、米長期金利が 1.428 を割り込んだタイミングが、ドル円のピークアウトであるとの判断に至った、つまり円ロングにシフトする決断をした投機筋も少なく無かったのでは、と考えます。

勿論、実際の緊急利下げで“動いた”プレーヤーも多く、いずれにしても、円ロングに傾けた判断は間違っていなかったと言えるでしょう。これまでは、相対的な側面でドルが選好されてきた事は事実であり、米金利の優位性が低下した現在の市場環境において、ドルが売られるのは自然の流れと言えるでしょう。

—このレポートに関しまして—

当レポートの著作権はすべてバーグインベスト株式会社（Burginvest Co.,Ltd.）に帰属し、「トレーディング・カレッジ」外への転載および無断引用は固くお断り致します。

また当レポートは、会員個人のみが閲覧いただけ、法人内・コミュニティ外での閲覧・シェアは固くお断りしております。（後日、閲覧人数分の料金を申し受けます）。無断の転載などを見つけた場合、著作権者までご連絡ください。

また、このレポートは、市場の研究とその情報の提供を目的としたものです。投資方針や時期選択等の最終判断はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、バーグインベスト株式会社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

ご理解をいただきまして、ありがとうございます。